

中央こども病院サービス向上プロジェクト（国際協力機構 JICA）

大阪赤十字病院 国際医療救援部 看護師 池田載子

派遣期間 2023年11月1日～12月25日

シエラレオネ共和国にて、国内唯一の小児専門病院であるオラ・デュリング小児専門病院（以下 ODCH）の医療サービスの質の向上のため、短期専門家として2回目の訪問をし、支援活動をおこないました。前回に引き続き、看護師の勤怠状況の向上や、患者安全の向上、看護の質の向上を目標に活動しました。

低賃金と交通手段の確保の難しさ、勤怠管理の不十分さなどから、看護師の勤務状況は悪く、時として勤務時間に看護師が一人もいないということがあります。今回は、11月26日に首都フリータウンでの武器庫襲撃があり、夜間外出禁止令が発出されたので、翌27日には、ほぼ1日中看護師が勤務していない部署が7部署中3部署にも上りました。その後も、特に夜間の交通手段確保が難しく、またセキュリティに対する不安から、看護師の勤怠状況は悪化したままでした。その間、子どもたちは入院しているにもかかわらず、十分な医療や看護を受けることが出来ず、死亡率も増加しました。看護師の勤務を3交代から2交代制に変更し、勤怠管理をマトロン室（看護部室）で行うなどの対策をおこない、勤怠状況はやや改善しました。

低所得国における医療レベルは低いと言われますが、いわゆる医療事故も多く発生しており、問題となっています。しかし、インシデントの報告や分析は十分に行われていません。ODCHではインシデントレポートのテンプレートがなく、記載する場合は記述式のため、個人によってレポート内容に差があり、データとして収集するにも適していませんでした。今回はインシデントレポートのテンプレートを作成し、検討してもらいましたが、正式に承認してもらう委員会は開催されなかったため、派遣以降に承認は持ち越しとなりました。

ODCHは来年の4月ごろに新病院に移転予定となっています。新たに外科病棟が加わるのですが、外科看護の経験のある看護師はいません。そのため、移転前に小児外科看護の研修を行うことにしました。包帯交換や人工肛門のケアなどの演習を含め、4日間の集中研修をシエラレオネ保健省と合意し、研修内容がほぼ決定しました。現在小児外科手術を行っているコノート病院の看護副部長と共に今後の計画の詳細を詰めていくことになっています。シエラレオネにおける小児外科手術、特に腫瘍の手術はコノート病院でしか実施されていません。新病院建設後は、コノート病院の小児外科はなくなり、新病院で実施されることとなります。日本と大きく異なり、網膜芽細胞腫などは顔の変形などの、外見的变化が見られて始めて発見されることが多く、進行している場合は多くみられます。また、発見された後も、手術の待機時間が長く手遅れになっていることも珍しくありません。低

所得国では、マラリアやはしか、肺炎などの感染性疾患も問題ですが、がんなどの非感染性疾患の死亡率も高く、世界的な問題となっています。新病院で外科やがんの治療や看護が円滑に行われることで、多くの命が助けられるように、支援を行っていきたいと思います。